

第 12 回 小豆島町総合教育会議

【日時・場所】

○開催日時 平成 28 年 8 月 4 日（木） 午後 3 時 30 分～

○開催場所 内海庁舎 2 階 研修室

○出席者 塩田町長、後藤教育長、熊坂委員、岡田委員、中川委員
森口小豆島町議会議長、大川小豆島町議会副議長、
安井教育民生常任委員会委員長、中松教育民生常任委員会副委員長
谷総務建設常任委員長、松下総務建設常任副委員長
岩澤小豆島高等学校校長、小玉小豆島中学校校長、三木池田小学校教頭
羽座星城小学校校長、日向安田小学校教頭、川井苗羽小学校校長
慈氏草壁保育園園長

○同席者 【町職員】

松本副町長、坂東教育部長、大江企画振興部長、城政策統括監、空林総務部長、松田社会教育課長、後藤子育て共育課長、高橋教育指導室長、川宿田企画財政課長補佐、片山教育指導室長補佐、

【教育関係者】

安藤園長(星城・安田・苗羽幼稚園)

川口園長(旭・福田幼稚園、内海保育所橘・福田分園)

増田小豆島こどもセンター所長

大岡内海保育所所長

○傍聴者 11 名

○事務局 3 名

【内 容】

[塩田町長] 挨拶

第 12 回小豆島町総合教育会議を開会する。今日は小豆島町のこれからについて、幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校をどうしていくかということ、来年 4 月から新しい小豆島中央高校がスタートし小豆島高校の跡地をどう活用するかという問題が目の前にあるのでこの 2 つのことについて私小豆島町長と小豆島町教育委員会の事務方がどう考えているかをご説明させて頂く。とても大きな話であるので次回以降も議論して頂かなければならないが、後で今日の段階で決めたことの質問などをしていきたいと思う。今朝の小豆島町議会の民生教育委員会で説明し、貴重なご意見を頂いた。町議会でもこれから何回も議論していく大きなテーマであろうと思う。総合教育会議あるいは教育委員会でも議論して頂きたいと思うし、町民の皆さんなどには初めてのお話になるのでそういった方への説明を怠らないようにしたいと思う。これから 5 年、10 年の小豆島町の教育をどう

するか、子ども達がどういう未来に向かうかとても大事になるのでよろしくお願ひしたい。それでは教育委員会の事務局からご説明をする。

[坂東教育部長]

学校教育課の坂東です。それではお手元の資料の1ページをお願ひする。町内の小学校、幼稚園・保育所の統合の状況であるが、左側が小学校、右側が幼稚園・保育所になる。現在の小学校は池田小学校182人、星城小学校136人、安田小学校160人、苗羽小学校117人の4校になっている。昭和30年以降この4校になるまでの統合の状況をお示ししているが、矢印を追って頂くと統合年と統合前年度の児童数を表している。幼稚園・保育所については池田地区では平成16年にすべての幼稚園・保育所が統合して現在の小豆島こどもセンターになっている。内海地区は幼稚園が星城、安田、苗羽、橘、福田の5園で、橘と福田はそれぞれ内海保育所の分園と一体化してこども園にそれと内海保育所という状況になっている。

2ページをお願ひする。10年後、20年後、30年後の小豆島町の子ども数の推移になる。社会保障・人口問題研究所が平成24年度に公表した将来推計人口と昨年度に小豆島町が独自に作成した人口ビジョンについて、小学校の児童数と中学校の生徒数の推移を比較したものである。これは第9回小豆島町総合教育会議で使用した資料にもなる。小豆島町の人口ビジョンについては、毎年100人の方が移住し、その半分の50人の方が定住するという条件と毎年生まれる子ども数が80人～85人確保できるという条件で作成している。左下のグラフでは小学校の児童数の推移になるが、2015年の児童数は567人であるが社人研推計では2060年には159人にまで減少するというようになっている。それに対して小豆島町の人口ビジョンでは2020年以降も500人以上を維持出来るようになっているが、現実にはこの2つの折れ線グラフの間を推移するようになると思う。

次に3ページをお願ひする。第10回総合教育会議において町内小・中学校の校長先生から各学校の現状と課題について発表して頂いたが、その中から小規模校・大規模校のメリット・デメリットを抜粋した資料となる。小学校の統合について検討するという事は小規模校のデメリットを解消する、また大規模校のメリットを活かす教育を実現することになる。大規模校のメリットは①学習面や生活面において、児童・生徒が切磋琢磨したり、競い合ったりすることで、能力を伸ばし、たくましさを身につけることができる。②学習面において、多様な見方や考え方を交流することができる。③多様な人との関わりができ、人間関係に幅ができる。となっている。

4ページをお願ひする。第11回総合教育会議における浅田和伸文部科学省大臣官房審議官のご講演の内容をまとめた資料になる。文部科学省のキャリアであり公立中学校の校長を経験するなど教育現場を知り抜いているお立場から貴重なご講演を頂いた。何点か読み上げる。「教育情勢とは」の①、子ども達が「どんな未来を生きる」かを考えて、今の子ども達にどういう教育をするかが重要であり、この視点から教育の在り方を考えなければいけないというお話であった。また一番上の赤字の部分になるが、「一人ひとりの居場所はまちまちであり、教育は一人ひとりの居場所づくりの応援であり、手段である」ということも仰られていた。

次に5ページをお願ひする。「義務教育学校について」であるが、これは第9回総合教育会議でも使用した資料になる。平成28年4月に施行された学校教育法の一部改正によ

り、学校教育制度の多様化及び弾力化を推進するため、現行の小・中学校に加え、小学校から中学校までの義務教育を一貫して行う「義務教育学校」が新たな学校の種類として規定された。右側は義務教育学校についての記載であるが、主な特徴だけ紹介する。修業年限の①、修業年限が9年となり、「4・3・2制」や「5・4制」などの多様な区切りが可能となる。教育課程の②、小・中の学習指導要領を準用した上で、一貫教育の実施に必要な教育課程の特例を創設し、小中一貫教育の軸となる独自教科の設定（ふるさと科、英語科など）が可能となっている。

続いて6ページをお願いします。これは浅田さんのご講演の資料からの抜粋となる。コミュニティ・スクールについてであるが、地域と一体になって子どもたちを育む「地域とともにある学校」作りの仕組みとなっている。このコミュニティ・スクール制度を導入した場合、大きく3つの特徴がある。1つ目は必須事項として、「校長の作成する学校運営の基本方針を承認すること」。2つ目以降は任意となるが、「学校運営について、教育委員会又は校長に意見を出すことができること」、「教職員の任用に関して、教育委員会に意見を出すことができること」となっている。今後小学校の統合を検討する際には、この義務教育学校及びコミュニティ・スクールの運営について検討したいと考えている。

次に7ページをお願いします。「教育施設の再編の方向性について（案）」になる。再編の方向性について3点挙げている。1つ目、「内海地区の小学校・幼稚園の集約」。①小学校は、小豆島中学校へ移転、②幼稚園は、内海認定こども園に集約。2つ目、「小豆島中学校は小豆島高校跡地へ移転」。3つ目、「小豆島高校跡地の有効活用」としている。図面の方になるが青色の部分が幼稚園・保育所になる。池田地区については小豆島こどもセンター、内海地区の方にはいきまして真ん中に民間認定こども園（草壁保育園）となる。次に右下の方にはいきまして、内海認定こども園。これについては苗羽幼稚園と内海保育所を統合したものとなる。将来的には星城幼稚園、安田幼稚園、橘こども園の統合について検討したいと考えている。次に緑色が小学校となり池田地区は池田小学校、内海地区については星城小学校、安田小学校、苗羽小学校の3校を統合して現在の小豆島中学校の場所に内海小学校とする。小豆島中学校については小豆島高校跡地に移転という風に考えている。

「小豆島高校跡地の活用」について①小豆島中学校（校舎、グラウンド等）、②社会体育施設（野球場ほか）、③アート・文化施設（旧体育館、東館）となっている。次に「小学校跡地の活用の可能性」について、体育館とグラウンドは、社会体育施設として地域で活用することを前提に、校舎等の施設の活用の可能性を検討する。①小規模多機能施設等、②子育て拠点、⑦アート・文化施設、これ以外にも⑧その他として検討できるものは地元と協議を進めていきたいと考えている。

次に8ページをお願いします。「小豆島高校跡地の活用について（案）」になる。活用の方向性としては来年、平成29年4月以降町において敷地全体をフルに活用していきたいと考えている。施設の利用の方法であるが下の方から茶色で囲っている部分「社会体育施設（野球場等）」ということで野球場については高校、中学校部活動、スポ少及び一般の共有施設として活用したい。真ん中右にて「アート・文化施設」。旧体育館についてはアート・文化センターとして活用。中学校が移転した後では中学校の体育館としても利用したい、また社会体育等でも体育館の利用を考えたいと思っている。東館については宿泊管理棟等として活用したい。赤の線で真ん中にあるのが中学校との敷地境界という風に考えている。現在の高校の校舎については築45年が経過するので、中学校移転の際には既存

の校舎を解体して新たに中学校の校舎を建設したいと考えている。上について新体育館と北グラウンドについては現在のまま使用できるものと考えている。それから上の部分についてはプール、武道場、弓道場、相撲場とあるが社会体育施設等との併用を検討しながら整備を進めていきたい。中学校建設までは、社会体育施設として利用していきたいという風に考えている。

次に9ページをお願いする。下の方から説明すると、一番下赤で囲っているのが中学校について。これについては小豆島高校跡地の活用ということになる。来年4月から社会体育施設として野球場、当然体育館やグラウンド等も含めて29年4月より供用を開始したい。旧体育館の東館を改修して30年4月にはアート・文化施設として供用を開始したい。中学校建設については方向性が決まれば香川県の方と用地協議等を進めながら測量・基本設計、実施設計、最終的には校舎建築工事・外構工事等を実施して33年4月には中学校として開校したい、中学校としては移転したい。事業期間としては最短で4年程度はかかるということと考えている。青の矢印で真ん中の小学校の方についているが、中学校の移転後、現中学校の改修工事またはプール建設工事等に着手して、1年後の34年4月に内海小学校を開校したい。一番上になるが幼稚園・保育所については現在苗羽小学校の方で建設するように進めていたが、こういった小学校の統合、中学校の移転等を踏まえて再度検討を行いたい。来年度から実施設計、園舎建築工事をして31年4月に内海こども園として苗羽幼稚園、内海保育所を統合したこども園にしたい。その後、星城幼稚園、安田幼稚園、また橘こども園等の内海地区の幼稚園の統合協議を進めながら、小学校が空く34年度に苗羽小学校校舎解体撤去工事等を実施して、最終的に35年4月に内海地区の幼稚園統合を進めていきたい。それぞれ幼稚園・保育園の跡地の活用、小学校の跡地の活用についてもこのスケジュールのイメージに基づいてそれぞれ町議会、地元の皆様と跡地の活用について検討を進めて参りたいと考えている。

最後になるが10ページをお願いする。「内海地区の小学校を集約する意義について」になる。統合を検討する際にメリットとして考えられることについて、児童、学校・教師などの視点からまとめたものになる。児童としては「一人ひとりの資質や能力を伸ばすことができる」ことや「学習面において、多様な見方や考え方を交流することができる」とともに、多様な人との関わりができ、人間関係に幅ができる」ことなどがある。学校・教師にとっては①「学校規模が大きくなることで、効率的な学校運営が行えるとともに、教職員一人当たりの校務負担や行事に関わる負担を軽減できる」。また②については児童にも共通しており、「1学年が2学級になると、児童同士の間関係や、児童と教員との人間関係に配慮した学級編成ができる」。地域としては①「コミュニティ・スクールを導入した場合、学校・家庭・地域の有機的な連携・協働体制を構築できる」ことがある。用地としては①「小豆島町跡地を、中学校施設、社会体育施設、アート・文化施設として有効に活用できる」ことが挙げられる。最後に施設としては①「学校施設の耐震化は完了しているが、建築後の年数が相当経過しており、施設全体が老朽化しているため、将来的には新築する必要がある」という風に考えている。注1として参考に建築後の経過年数が池田小学校36年、星城小学校49年、安田小学校45年、苗羽小学校55年となっている。説明は以上で終わる。

[塩田町長]

以上が事務方の説明である。初めて聞かれる方がほとんどだと思われるので、今聞いた範囲内で気がついたことであるとか質問があればお聞きしたいと思う。今日一回で終わるテーマではなく、10年後、20年後、30年後あるいはもっと先の小豆島町、小豆島の未来を決めるような大きなテーマだと思う。先程も申し上げたように総合教育会議の場だけではなく町議会でも議論して頂くし、PTA等それぞれの地域社会の未来に関わる話が多くあるので地域に出向いて行って説明しご意見を伺う場を持ちたいと思っている。スケジュールで説明があったようにすぐ来年度から実行しないといけないことと、何年か先やりながら考えられることなど色々ある。間違いないことは来年の4月から小豆島高校が場所としては活用されない県有地、県の建物が残るということになる。速やかに香川県の教育委員会に「小豆島町としてあの場所を小豆島町の総合的な教育・文化・スポーツの拠点・施設として小豆島町の方で活用したいので県に土地・建物について譲渡願いたい」あるいは「所有は県のまま管理委託を受けたい」と。9月には正式に香川県の教育委員会に申し出なければ香川県も困るだろうし、小豆島町でも活用したくても香川県の財産であるので勝手に使うことは許されない。いずれにしても小豆島高校の跡地の活用については速やかに。小豆島町の方で総合的な教育・文化・スポーツなどの活用をしたいというように正式に申し入れをしたいと思っている。その他の事についてもこれから年末にかけて議論して、来年度予算に盛り込まなければいけないものについては年内の方針を決めたい。それから先何年もかけて考えながら決めることもできるが、大きな構造というか方向性というものについてはなるべく早く町民の皆様のコンセンサスを得たいと思っている。そのような前提で何か質問でもあれば。教育長から何か補足があれば。

[後藤教育長]

今日の教育民生の会で31年4月に内海こども園を作るのは不可能ではないかということと言われた。これは保護者の方や検討委員会の皆様のご意見からこれでいくという一つのイメージであって、これで押切るというものではない。皆様方のご意見を聞きながら一番良い方向を探っていくということ。しかし、大体の区切りとしてはこれを目途として頑張っていきたいと思っている。何でもいいので皆さんの思っている意見を言ってもらって、参考になるようなことを考えていきたいと思う。

[小玉小豆島中学校校長]

中学校の立場から感想というか質問をさせてもらおうと思う。基本的に中学校を新しく小豆島高校の跡地に建てられるといった意見について、非常に恐れ多いが正直申し上げると小学校の先生方がいらっしゃって中学校の後に小学校が入るとするのは、中学校のおさがりを小学校が使うといった印象を持ってしまう。中学校としては本当に有難いという気持ちもあるが、正直申し上げて部活動等のB&Gや勤体への移動の点で生徒に不便な所はあるけれど、スクールバスを運行したりして本当に今軌道に乗ってできているかと思う。本当に充実した施設を使わせて頂いて部活動ができるということでむしろ恵まれた環境に中学校はあるのかなという風に私は思っており、教職員もあまり不便さは感じていないのではないかと私は思っている。そういった中で小豆島高校の跡地に部活動の野球場であるとかそういったものができるというのは有難いが、今のままで十分行けると思っている。むしろ小豆島高校の跡地に小学校を建てる方が、建築等の工期を考えたりしても短時間で

いけるのではないかという気がする。直接小豆島高校の後に内海小学校を作るという方向の方がスムーズにいけるのではないかという気がする。ということでよろしく願いしたい。

[塩田町長]

他に別の立場のご意見があれば。

[安井教育民生常任委員会委員長]

私は中学校を統合する時の池田中学校のPTAの会長をしていたが、保護者の懸念として部活動をそこでずっとしていると子ども達の安全性の面からしていかがなものかなということがあった。今回建物を建てるということは半世紀ぐらいを考えた町の教育ビジョンになってくるので色んな所で「あの時やっておけばよかった」ではなくて、そこで全部完結できるような形の安全性を確保できるような形でしてもらいたいと思っている。それと今日の教育民生の委員会の意見の中では、小学校の現場の方にこども園の統合などの影響が出来るだけかからないような形でしてもらいたいという意見が出ていたのでその辺を皆様にご紹介させて頂いた。

[塩田町長]

ありがとうございました。色々な意見を教えて頂きたいと思う。安井さんが言われたように何十年先を見据えて最終的な結論を得たいと思っている。

[谷総務建設常任委員長]

総合教育会議というのは現在のというわけではなく、コミュニティ・スクールや義務教育学校というような教育制度の変わる部分も考えて、浅田審議官が言われたように40年先、30年先の子どもにどういう風になってもらいたいかを考えながら、ハードがどこにあるというのではなく先にどういう教育方針でいくのか。コミュニティ・スクールを採用するのか、義務教育学校制度を考えるのか、そこから入った方が良いのではないかと思う。色々な意見の中で高校の跡地や小学校の統合などあるが、本来の教育がどうかというのは先生方の方に大きな考え方の変化というか変革してくるものだと思う。そのあたりを教育委員会で意見を交換しながらこの制度についてのメリット・デメリット等を徹底的に話していないと、PTAや地域に対してどういう説明を先生方ができるのかまた我々がそういうことができるか。小学校と中学校というお話があるが焦点を合わせたら義務教育の中の一貫ということになるのではないか。

[塩田町長]

とても貴重なご意見をありがとうございます。私自身も義務教育学校、コミュニティ・スクールは出来れば実現したいという思いを持っている。しかし決めるのは総合教育会議の教育委員会や町民の皆様が最終決断をするので、その前提で私は議論をしたいと思っている。他に。

[羽座星城小学校校長]

今日は池田小学校出水校長、安田小学校石田校長は別の会議に出ているためにここに参加していないが、小学校4校の校長の考えとして統合に賛成なのか反対なのかこの総合教育会議の場でコメントすることについてこれから先も差し控えさせて頂きたいということをお願いしたい。我々は与えられた環境の中で子ども達をしっかりと育てていくのが仕事だと思っているので、今のまま統合しない小学校で子ども達を育てていくことになっても、統合してもやることは同じだと思っている。それが1点である。これからは私の個人的な考えがあるが、コミュニティ・スクールについては統合しようが、今のままにしようが大変素晴らしい考えがあるので、これからは是非進めていって地域とともに子ども達を育てていきたいと思っている。義務教育学校について、義務教育学校を進めていくとなると今の考えだと池田小学校は別にして旧内海町の3校を統合した形での統合校ということになっているが、そうなった場合義務教育学校の考えが果たして進められるのだろうかという疑問に思っている。もし義務教育学校の考えで進めるのであれば、池田小学校も含めて小学校1校、中学校1校で作る。そうしないと「5・4制」であるとか「4・3・2制」であるとかというのは実質無理だと思う。それと義務教育学校を効率的に進めるためには、施設一体型でなければなかなか効率的にいかないのではないかと思っている。せめて施設隣接型。今の町の考えであれば、小豆島中学と小豆島高校が別の場所にあり施設が離れているので効率的な義務教育学校は進められないのではないかとこの風に個人的には思っている。

[塩田町長]

他に何かご意見は。

[後藤教育長]

校長先生の立場として賛成か反対か控えさせて頂きたいというのは分かる。また、個人的には意見を聞くことはあるかと思う。コミュニティ・スクールについては各学校で今やっている考え方を続けていきたい、今やっているから続けていきたいということだと思うが、今回は内海地区の大きな捉え方のコミュニティ・スクールと思って頂ければと考えている。あと義務教育学校で池田小学校がということが挙げたが、まさにその通り。隣接型という隣同士になるという捉え方を文科省は厳密にはそこまでは言っていないということで、ある程度離れていても可能であるという捉え方もあるのでこの点はこれから慎重に協議して、どうなのかということをごきちんと考えていきたいと思っている。羽座先生、今の4校の校長の意見というのは校長会としての意見なのか。

[羽座星城小学校校長]

校長会ではないが、4人の考えとしてということ。

[後藤教育長]

4人の校長先生の考えが同じということですね。

[塩田町長]

だとすると一人ひとり言ってください。

[谷総務建設常任委員長]

義務教育というのは9年でということであり、今から議論すればいいことであるが、やはり皆さん先生方は小学校と中学校という固定観念がある。それはいったん取り外してもらい9年間で子ども達をどういう風に育てるかということ。それが隣接型というハードの部分ではなく、どういう形で9年間小豆島町の子どもに義務教育を終えさせるか、きちっとした形で高校へ送るか。本来は高校へ送るという目的ではないが、そういう形の議論をした上で義務教育学校が良いのかどうか。コミュニティ・スクールが良いというご意見が先程ありましたが、そのコミュニティ・スクールに審議会があるがそれが意思決定機関であるのか評議機関であるのか、そこが分からないので教えて頂きたい。コミュニティ・スクールの学校運営協議会というものがあるが、ここが意思決定機関であるのかどうか。協議機関であり諮問機関であるのか意思決定機関であるのかどうか。

[後藤教育長]

学校運営協議会は校長の考え、学校運営について同意をして頂く。先程説明がありましたように、「こちらの方が良いのではないか」という風に校長に意見を出すこともできる。最終的には校長が出した意見に対して協議会が認めるという形になる。

[谷総務建設常任委員長]

ということは意思決定は校長にあるということですね。

[後藤教育長]

校長が協議会の意見を聞いて意思決定する。

[塩田町長]

他に何か発言して頂ければ。

[松下総務建設常任副委員長]

また学校施設の方に戻ってしまい申し訳ないのだが、財政的な面から懸念させることを敢えて申し上げたいと思う。小学校、幼稚園の跡地活用について慎重に検討するべきだと思う。小学校の運動場にしても体育館にしても社会体育施設という方向性が出されているが、もしかすると運動場にぺんぺん草が生えたり、体育館も相当有効活用しないとホコリまみれになるような懸念がある。もう一点は財産を有効活用するための維持管理経費が苗羽小学校は別にして、安田小学校、星城小学校、幼稚園は星城、苗羽、安田の活用を慎重に検討すべきではないかという個人的な思いがある。

[塩田町長]

現時点の役場の考えを述べてもらいたい。

[松本副町長]

松下議員が仰った通りだと思う。そういった活用方法を資料にもあるように多面的に検討させてもらって、当然地元の意向も十分に尊重しながら、いかに有効にできるか、どう

いった施設であれば有効に活用して頂けるかということ念頭に慎重に検討していきたいと思う。

[松下総務建設常任副委員長]

ありがとうございます。ただもう一点気をつけておかなければならないのは星城にしても、安田にしても今現状の体育館を有効活用するとしても建て替えの問題も出てくる。それも含めてお願いしたいと思う。

[坂東教育部長]

社会体育施設として活用する場合には、本町の場合には他にも B&G や内海体育館、将来的に統合すればそれぞれの小学校の体育館も出てくる。建築後の年数等も含めて町内の体育館の体育施設についてはすべて建て替えではなく、体育館の活用や廃止を含めて将来的に計画していきたいという風に考えている。

[塩田町長]

他に何かないだろうか。

[安井教育民生常任委員会委員長]

教えて頂きたいのだがコミュニティ・スクールの場合、今学校それぞれの中で地元の意見を聞くような会合をもう作っているが、ただそれがきちんとした制度化になるということではないのか。私はそういうイメージがあるのだが、そうであればあまり変わってしまうというようなことはないのか。学校運営の中で地域の人意見を聞いて学校をどのようにしていくかというのは、今は学校関係者会などがあり校長が招集して、こちらが「こうやった方が良い」という意見を言うような会がある。その部分を ここにある学校運営協議会という風な形にするようなものかと思うが、その辺りはどうなのだろうか。

[川井苗羽小学校校長]

今の形は学校評議員会の事を言っていると思うが、それと学校評価委員会というのも大体の学校に持っていると思う。そこでは校長が意見を求めた場合という記載があったと思う。ですから学校の実情としては広くご意見を言っているが、法律的には校長が意見を求めた場合に意見を言うという風になっていると思う。今度のコミュニティ・スクールの場合は、人事権であるとか学校運営全てにおいて意見を言うことができるような捉え方になってくるので、法律的にはその辺りが一番違うのではないかと。

[塩田町長]

行政経験が長く国の法律を作った経験からすると、「法律上の位置付け」や「法律上の権限」など、ここには教育委員会が学校運営協議会の意見を尊重するということが法律上書かれているので相当重たい組織だと思う。今実態上行っている運営協議会とは全然性格が違うと理解していいのではないかと思う。

[安井教育民生常任委員会委員長]

香川県下で行った場合、先生の取り合いというのは不可能な部分があるのかと思う。今でも学校によっては「好き放題言って下さい」という風な形で運営を行っているので、その上に法律なりの部分で権限がついてくるような形なのかなと思う。

[塩田町長]

例えば、私が運営協議会の会長になったらこの法律を基に県の教育委員会を100%説得してみせます。こればかりは完璧に教育委員会の方は個別の先生の人事では多分負けると思う。裁判にというぐらい本気になれば。これは本当に大変な制度を文科省が作ったと思う。だけどあまりにも堅苦しい制度なのであまり普及はしないのではないかと思う。香川では確か一校ですよ。

[後藤教育長]

三木町の小学校がやっている。今町長が言ったように県の義務教育課としてはあまり人事の事については触れて欲しくないということだそうだ。

[岩澤小豆島高等学校校長]

県立学校の立場でお話しさせて頂く。県の高校側としては、跡地利用として教育関係の施設等が出来ることは有難いことである。ただその中で、義務教育学校等も含めて小学校、中学校を一貫とした形、中学校と高校の一貫校もありますが、その中のメリットとしては9年間で新たに教育課程を組む。例えば、小学校を教えている場合そのまま中学校まで引き継いでいける。極端に言うと9年間担任または教科の方で関わることができる、というのは極端な話であるが色んな取り組みが出来るというメリット。今の高松北高校が併設型の中高一貫校であります。この中でも中学校と高校が連携して新たな色々な取り組みを行っている。もともとこの小豆島という島は小学校、中学校、高校という一貫校のようなものである。それを新たに制度化して、そして新たな取り組みとして実際に教育課程上できるという意味では非常に素晴らしい取り組みが出来ると思う。県立学校側からの意見であるが、ある意味そういう風な将来的な事を考えていくことも大事と思う。それと今小規模で一人ひとりに手厚く指導できるというのもメリット。今の小豆島高校は県下一小さい高校である。その中で他校の大規模校と比較しても非常に一人ひとり丁寧な指導が出来るけれども、ただその中で実際に今の倍、来年統合して小豆島中央高校になるが教育内容としては今以上に期待感がある。それは結局一人ひとりが手厚い教育をプラスしながら、少人数授業等を繰り返して課題等もすれば実施できるので、それプラス切磋琢磨して教育を活性化できる。もちろん行事も含めて部活動も。教育内容も結局は今小規模で実際は3学級規模の所を4学級にして、しかもそれをまた分割して行っている。大規模の学級規模になってもそれを実施したら更に素晴らしい教育ができるし、やはり小規模校では教育の負担が非常に大きすぎる。非常に小規模の中で教育の配置というのは限られているので、その中で教員の力いっぱいやって倒れそうぐらい今やっている。今本当にギリギリで、もうこれ以上は学校の方ではもたないので来年統合ということで、当然しなければもたない。小規模のメリットもあるが、生徒数を増やして教員も増やすというのはものすごく期待感がある教育の取り組みが出来る。そういう意味で義務教育学校、または統合を通して規模を増やす。一番良いのは併設した義務教育学校だと思うので、そういう意味

では小豆島高校の校地というのは県下有数で、グラウンド等を含めてスポーツ施設等も一体化した学校は県下でもない。ですからそういった環境に恵まれている。その中で本来であれば中学校、小学校が一体化して、そういう風な活動をすれば一番良いと思う。ただそうなった時に先程話にも出たように跡地利用をどうするのかということもあるので、そういうことも含めると案として示された小豆島高校の跡地に中学校または小学校のどちらかがくると思うが、そういう風にして教育環境を整えていくのが良いと思う。ただ第3者的な立場で言っているような感じになるのだけれども、やはり将来の小豆島全体を見た時にはやはりこれから生徒が少なくなってくる中でいかに教育の質を落とさないという取組としては素晴らしいと思う。

[塩田町長]

ありがとうございます。あと一人お願いしたい。

[慈氏草壁保育園園長]

皆様方のお話を聞いておりますと難しさを感じます。しかしながら私は教育者の中で民間ということの優位差があるかなということを感じたりする。民間なのでフットワークが軽いということがあるのではないかな。そういう位置付けからしても比較的自由度を持って、私事ですが草壁保育園を運営しておると思っている。それが良い点であるかと思っている。いつも思うのだが「教育は百年の計」と言いう言葉があるが、百年の計というのは今思った事が100年後に現れるということと同意義ではないかと思う。お茶の先生や武道は、こんなことを言っただけとはいけないのかもしれないが何代も続いて初めて達成できる部分があるというのが言えるのではないかと思う。そんな意味でも百年の計ですのでこれからどんどん議論が進んでいくのだろうが、総合教育会議の中で小豆島の50年後、100年後ということをお聞きして仰っておいでだと思うが、小豆島の将来がどういう風になるかというのは官民挙げて色々な人の意見も聞かなければいけないかもしれないが、早いうちに1つの方向性が決まったらいいかなという風に思う。余談になってしまったが、2点ほど言いたい事がある。1つはいつもこの総合教育会議の資料の中で私立の事については付録のようなことしか書かれていなくて、保育園としては60年を超えてもう少しで65年を迎えますし、寺子屋から言えば何百年という歴史があるかと思っているが位置付けとしては私どもの事がいつも載っていない気がするので、出来れば一言書いて頂ければ有難いと思う。7ページにはちゃんと載っているが。あと個人的な事ではあるが私も弓道部の部長をやっていたこともあり、弓道場がここには載っていないということで小豆島高校の後に社会人の弓道場というものが出来れば、中学校の時から弓道をして、今高校でも結構強いと思うが続けてやっていけるのではないかと思う。先程思ったのだが、小豆島が特区のような形で色々な部分を独自に決められて、日本に示すようなことが出来れば本当にうれしいと私は思っている。

[塩田町長]

ありがとうございます。1ページも草壁保育所を足して町民の皆様にもご説明したい。

[大川小豆島町議会副議長]

弓道場は載っているが。

[慈氏草壁保育園園長]

載っているが、残るとは書かれていない。

[大川小豆島町議会副議長]

色んな意見が出ており、今回はこういうことが案としてこの教育会議に出たということ。実際は12月までに教育大綱を作るために方向性を示そうということでこういったスケジュールで小学校を何年後の一つにする、という方向性を示しただけであって内容に関してはもっとこの会で練っていく必要が当然あると思う。スケジュールで小学校が5年、10年先にどうなるか分からないのに小豆島の教育大綱を考えるというのはあまりにも先が見えないので、ある程度の「学校は何年後になる」というそれに向かって意見を聞く会だと私は考えている。今日は皆さんすごく良い意見であるが、目標があって初めて出来るのではないかとつくづく思っている。このある程度の年度の案は良かったのではないかと思う。

[塩田町長]

今大川議員に言ってもらって通りでこの会は年末か年度末に向けて、向こう10年ぐらいの小豆島町、小豆島の教育大綱を決めるというのが法律上決めなくてはいけない任務である。その前提として小学校、中学校、高等学校がどうなるかという共通認識を持つための提案である。であるから谷さんが言ったようなコミュニティ・スクールや義務教育学校の9年間でどんな教育をして、どんな子どもに育てるのか。それと高等学校を合わせて小豆島を出るときにどんな子どもに育てるのかというイメージの共有、共通認識を持って上で核論についてということ。この会議では引き続きそういうことをしたいと思っている。次回は教育大綱のイメージのようなものをお見せする。核論は別にして、教育大綱の柱になるようなものを、当初1度出したと思う。細かい内容ではなく教育大綱ではどういったことを決めるのかということ。

[坂東教育部長]

次回までに準備するようにする。

[塩田町長]

それと高等学校の跡地は放っておくと県有地でシャットアウトされるので、来月か今月あたりから県の教育委員会に、「小高の跡地は来年4月以降教育、スポーツ、文化などそういった観点で小豆島町として活用したい」ということだけは申し入れし、それが譲渡になるのか管理委託になるのか内容はこれから決めていけば良いことだが、少なくともそうするという事は県に伝えないと香川県も困ってしまう。あと土庄高校の跡地もあるので両町足並みを揃えて、それだけは待たなしの作業であるので随時報告するが対応させて頂こうと思う。ということで本日はこれにて。